

(P1の続き)

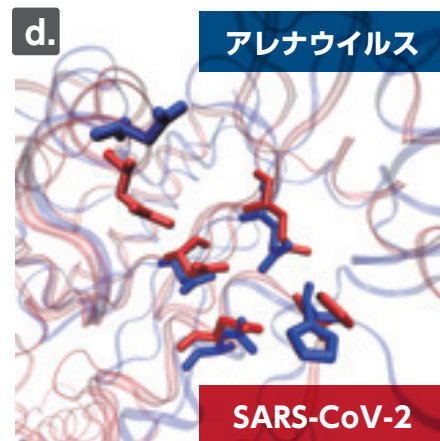
ています。2023年7月にはスリランカでげっ歯類におけるウイルス抗体調査を行ってきました(図c)。

我々はアレナウイルスの他、エボラウイルス、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルス、ハンタウイルスなどの基礎研究も展開しています。異なるウイルス間で共通する細胞内増殖機構、ウイルス独自の増殖機構を分子レベルで明らかとすることで、前者は広範囲なウイルスの、後者はウイルス特異的な、抗ウイルス薬の開発に繋げることが期待されます。具体例を挙げると、コロナウイルスとアレナウイルスは分類上異なるウイルスですが、我々は両ウイルス間で共通する抗ウイルス薬標的となり得る構造部位を同定し、実際に単一の化合物で両ウイルスの増殖抑制を確認し、学術論文として報告しました(図d)。

このように、高度感染症研究センター内はもちろん、それ以外にも国内外の研究者と連携をとり、共同研究を通してアレナウイルスを中心としたウイルス学 연구를ミクロからマクロの観点で推進し、ウイルス学の発展に貢献していければと考えています。



スリランカでネズミのトラップを仕掛けているところ



アレナウイルスとSARS-CoV-2で共通する創薬標的

市民公開講座の開催

令和5年7月22日(土)、市民公開講座「ウイルスを追い~感染症アウトブレイクにおける病原体検査の役割~」(講師:黒崎陽平准教授)を開催し、会場には高校生46名、一般の方も含めたオンライン参加を合わせると約100名の参加がありました。

講演では、病原体の検査方法やその仕組みについて、また、迅速な検査が感染症対策でいかに重要か等を解説し、最後に「感染症から人類を救うのは科学技術です」とまとめました。参加者からは、「PCRと抗原検査の違いが分かった」、「過酷な環境での実験の難しさなどを学べた」などの感想をいただきました。



長崎南高等学校「サイエンス講座」への講師派遣について

令和5年9月15日(金)に好井健太郎教授が長崎南高校SSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業の「サイエンス講座」の講師として招かれました。「感染症とたたかう~最高レベルの感染症実験施設とともに~」というテーマで、高校生約30名を前に講演を行い、その後グループディスカッションが行われました。参加者たちは、講師とセンター研究者等4名のサポートを受けて活発に意見を交わしました。



お問合せ先 ご意見・お問い合わせはこちらまでお気軽にご連絡ください。

長崎大学高度感染症研究センター 〒852-8523 長崎市坂本1丁目12番4号

フリーダイヤル 0120-095-819

より詳しくお知りになりたい場合は、ホームページをご覧ください。

ファックス 095-800-4301

ホームページアドレス <https://www.ccpid.nagasaki-u.ac.jp>

